

# 令和6年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 青葉 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）	
①	身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査	
○	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

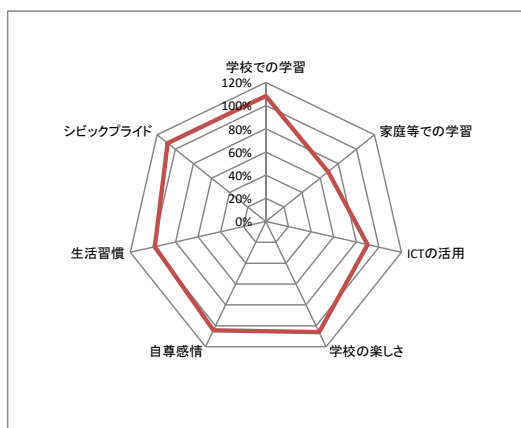
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	思考力、判断力、表現力等を問う内容（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）においては、すべての区分で全国平均を上回っている。特に、記述式の問題は全国平均を上回っている。無回答率も低い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じて、事実と感想、意見を区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること（思考・判断・表現・記述式）	
	努力が必要な問題	文の中における主語と述語との関係を捉えること（知識・技能・選択式）	

算数	全体的な傾向や特徴など	数と計算、変化と関係の領域については、全国平均と同程度であるが、図形、データと活用の領域については、下回っている。思考・判断・表現力等を問う内容の正答率が下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること（思考・判断・表現・記述式）速さの意味について理解すること（知識・技能・短答式）	
	努力が必要な問題	円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ること（知識・技能・短答式）	

#### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析	
○	「学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の問いに対して、約90%の児童が肯定的に回答している。「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を基本とし、考える時間の確保やノート指導など、児童の実態に合わせた授業をこれからも続けていく。
○	「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問いに対して、約98%の児童が肯定的に回答している。また「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の割合も高い。日々の道徳教育の成果が出ている。
●	家庭学習時間の割合が低いことから、学校からの課題だけでなく、今後も自主学習や読書活動などの推進を行っていく。
●	「PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の割合は低い。デジタルドリルに取り組みさせて知識・技能を高めたり、ICT機器を活用して、資料・情報を収集・整理させたりすることで、ICTを活用した思考・判断・表現力を高める授業づくりに努める。

#### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

##### ① 教科に関する取組

○「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を基本とし、考える時間の確保やノート指導を行う。また、ICT機器を活用して資料や課題を提示したり、児童に情報を収集させたり、学んだことを整理させたりして、思考・判断・表現力を高める授業づくりに努める。

##### ② 家庭生活習慣等に関する取組

○学校からの課題だけでなく自主学習の推進を促す取組を継続する。「学校だより」や「学年通信」等で保護者に協力を呼びかけたり、学級活動などで取り上げて話し合わせたりすることで、児童自身が生活習慣を見直す契機を積極的ににつくっていく。